

事業計画書

事業名	荒川の自然・歴史・文化を活用した上尾市平方地域を中心とした地域づくり
枠の種類	ネーミング事業（金紋世界鷹 みどりと川の再生環境保全事業）
1. 事業の目的	<p>この事業は、荒川の自然の豊かさと荒川とともに生きてきた上尾市平方地域の歴史、文化を生かして地域を再生することを目的にしています。</p> <p>単に歴史、文化、自然を単独でとらえるのではなく、荒川中流域にある平方を作ってきた自然環境が歴史文化を形成していることを深く総合的にとらえて地域づくりに生かしたいと思います。江戸時代、平方は旗本領や直轄領の多いこの地域と江戸を、荒川で結ぶ集産地として地域経済の中心でした。荒川の河川として機能が地域を栄えさせていたといえます。現在、河岸としての機能はなくなりましたが文化は今なお残されています。</p> <p>さらに荒川流域の自然は都市開発の進んでいる関東地方の平野部にあっては、まとまった生物多様性の残された唯一ともいえる地域になっています。</p> <p>将来的に重要になる日本の生物多様性をもった地域としての利点と河川の歴史的・文化的側面を残した地域を見直し、それらを生かしたまちづくりを行うことを目的にしています。</p>
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<p>上尾市平方地区は市内でも高齢化が進み、人口減少も進んでいる地域です。しかし荒川の豊かな自然に恵まれている地域です。また江戸時代から荒川舟運の重要な拠点として商業・工業などが栄えた地域でした。その豊かな自然と歴史文化を生かした地域について地元の方はあまり意識していないようです。</p> <p>荒川流域の自然保護活動については、当会と荒川上流河川事務所は密接な交流を持ち、三ツ又沼ビオトープ・西野堤防の在来野草のアマナ群落・貝殻堤防近くの河川敷に張り出した大宮台地の一部になっている屋敷森の自然保全で協力しています。昨年、堤防工事が行われた「貝殻屋敷森」は、今年4月の調査・管理作業では外来種の植物が29種あり在来種の量・質を圧倒的に凌駕していました。</p> <p>平方地域には八枝神社や平方河岸の間屋跡の建物などが残っていますが、間屋跡の建物は持ち主が危険性を危惧し解体する意向があります。修復することにより地域の再生に生かせるのではないかと考えていますが修復費をどうするか大きな課題です。</p>

3. 具体的な事業内容

- ① 平方地域の歴史・文化の掘り起こし（聞き取り調査）  
 聖学院大学の渡辺正人教授の協力で地域の歴史・文化の聞き取り調査をする。学生も数人参加予定。
- ② 平方地域の自然・歴史・文化をめぐるイベントの実施 2回  
 地元の歴史文化に詳しい人に講師をお願いする。対象上尾市民他 1回 50人。  
 1回目は10月に予定する。この時はパンフレット作製するイラストレーターも参加をしていただき地元の話や様子を直接聞き取ってもらいパンフレット作成の資料にしてもらう。これまで地域の聞き取り資料は少なく、貴重な資料となる。  
 2回目はアマナの開花直前の2月に実施したい。アマナ群落の見事さを多くの方に見て実感してもらうことが大切と考える。
- ③ アマナ群落保護のための調査と天然記念物指定へ向けた行政への働きかけ  
 アマナはユリ科アマナ属で、早春、陽当たりのよい草原に生える植物で埼玉県準絶滅種。上尾市西野堤防のような大群落はまれであり、平方の価値を高める自然の一つとして周知することで平方のまちづくりに貢献できると思う。まち巡りのイベントに取り入れていく。西野堤防の6月の結実期と開花時の分布調査を行う。
- ④ 上尾市貝塚地区の貝殻屋敷森法面の自然再生  
 堤防工事と県により行われた遺跡発掘場所外来種が繁茂してしまった。工事によって外来種の種子が入ったり、土壌の変化によって外来種が増加したりすることは、当会でご指導をいただいている東京農大の山田晋准教授のご研究でも指摘されている。地域の自然を豊かにするために、荒川上流河川事務所の許可を得て外来種を抜き取り、地域の在来野草の種を蒔いたり苗の移植をしたりして自然の再生を行う。
- ⑤ パンフレット作成  
 ①から④をまとめ、地域案内の20ページのパンフレットを2000部作成して、配布し、多くの人に平方地域に来てもらうようにする。

4. 具体的な事業の実施計画

○事業のスケジュール

①～⑤の各事業について、以下のスケジュールで行う。

時期	調査等	イベント	パンフレット作成	
6月	①歴史・文化聞き取り調査 ③西野アマナ群落自然調査 ④貝殻屋敷森の自然再生		⑤パンフレット資料収集	
7月	④貝殻屋敷森の自然再生		↓	
8月	①歴史・文化聞き取り調査・ ④貝殻屋敷森の自然再生			
9月	①歴史・文化聞き取り調査・ ④貝殻屋敷森の自然再生	②平方町巡り準備		
10月	①歴史・文化聞き取り調査・ ④貝殻屋敷森の自然再生	②平方町巡り1回目		
11月	④貝殻屋敷森の自然再生			
12月	④貝殻屋敷森の自然再生			
1月	④貝殻屋敷森の自然再生	②平方町巡り準備		
2月	③西野アマナ群落自然調査	②平方町巡り2回目		⑤パンフレット作成・配布

	<p>○広報計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上尾市広報にイベントを掲載</li> <li>・イベントチラシ 300 枚印刷・配布（市の窓口、公民館、小学校、地元商店、神社等）</li> <li>・ミツ又沼ビオトープの活動を通して市外の人にもチラシを配布。</li> <li>・荒川対岸の川島町役場、公民館、小学校にもチラシ置く。</li> <li>・11 月の上尾市の環境フェスタでパネル展に参加</li> <li>・新聞テレビなどのマスコミに積極的の取材を要請</li> <li>・イベントの中で参加者にアンケートを募り次回以降に活用する。</li> </ul>												
<p>5. 個々の事業の実施により達成したい成果の具体的な内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川流域の自然の豊かさと平方の歴史文化を多くの方に認識していただくことにより地域再生を図る。地域の自然・歴史・文化と一緒にした取り組みは、これまでこの地域にはなく、新しい動きになる。</li> <li>・聖学院大学と「平方河岸の遺産を活かす会」と協同して平方地域の歴史・文化と自然の豊かさについて、地元をはじめ周辺の人たちに広報する。大学の調査により地元の自然・文化・歴史への認識を高めることができる。</li> <li>・アマナの群落の調査を会員で実施することにより、貴重さを市・県・国にアピールし、天然記念物指定にするように働きかける。</li> <li>・多くの方に地元に残る貴重な建築物遺産を再認識してもらい保護へ結びつける。</li> <li>・イベントを 2 回開催し、1 回当たりの参加者の目標を 50 人とする。調査に参加した学生にも友人の参加を呼び掛けてもらう。</li> <li>・貝殻屋敷森に在来種の種まきをし、また会員宅で育てた苗を移植し、日本在来の自然の良さを多くの人に知ってもらう。</li> <li>・西野堤防や荒川流域の生物多様性や在来野草の価値を草原の研究者に著作物に記載してもらう。</li> <li>・マスコミに積極的に報道要請をしていく。新聞、テレビなど</li> <li>・イベント開催時にアンケートを実施し回収する。参加者の満足度・理解度を調査して参加者に地域への関心・理解を深めてもらう。同時にアンケート調査結果を次回以降の活動に生かしていく。</li> </ul>												
<p>6. 事業の実施体制</p>	<p>○事業の実施について</p> <table border="0"> <tr> <td>①総括責任者</td> <td>菅間宏子</td> <td>②連絡責任者</td> <td>佐藤健一</td> </tr> <tr> <td>③現場責任者</td> <td>奥隅俊男</td> <td>④経理担当者</td> <td>藤波欽司</td> </tr> <tr> <td>⑤広報担当者</td> <td>海老原直也</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>その他（協力）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化の聞き取り：聖学院大学 平方河岸の遺産を活かす会</li> <li>・自然保護活動：荒川上流河川事務所、上尾の自然を守る教職員の会</li> </ul>	①総括責任者	菅間宏子	②連絡責任者	佐藤健一	③現場責任者	奥隅俊男	④経理担当者	藤波欽司	⑤広報担当者	海老原直也		
①総括責任者	菅間宏子	②連絡責任者	佐藤健一										
③現場責任者	奥隅俊男	④経理担当者	藤波欽司										
⑤広報担当者	海老原直也												
<p>7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<p>この活動は最低でも 3 年から 5 年かかると思いますので、根気よく続けて地域に根付くようにしたいと思います。また自然再生は外来種との戦いにもなるので持続することが大切であるので在来種が定着するまで続ける。</p> <p>またこのような活動は地味であり、いきなり大きな成果を得ることはできないことを長年の活動で身に染みている。地道に継続することが大切だと考えている。</p>												

<p>8. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>地域の自然保護団体と地域の歴史文化に着目した団体がコラボすることにより今までのまちづくりとは違った視点で地域のまちづくりに取り組むことができる。この地域の良さを冷静に掘り起こし多くの方に知らせることが可能と思う。</p> <p>また在来生物の重要性が理解できる団体が参加することにより、在来生物が地域にとって、日本にとって重要な財産であることを知ってもらえると思う。単ににぎやかに同種の花がたくさん咲いていれば観光客を呼べるという風潮に警鐘を鳴らすことができる。生物多様性の重要性をまちづくりに取り入れることができる。</p> <p>なお、従来の活動実績から荒川上流河川事務所の協力が得られる。</p>
---	--